

実践力のある小学校教師の育成をめざして —理論と体験を絡ませた「児童教育演習」の試み—

益 田 亮 英

Cultivating Practical Teaching Skills in Elementary School Teacher Trainees:
Connecting Educational Theories with Teaching Experiences through the
“Practicum in Elementary School Education”

Ryoei Masuda

I はじめに

本学は2010年度入学生から小学校教員免許取得が認可され3年目を迎えた、「実践的な指導技術（力）を備えた児童教育のスペシャリストの育成」を目指して、様々な取り組みを実施しているところである。

1年次の「教師力演習」¹に引き続き2年次に「児童教育演習」を取り入れた。日本教育新聞の連載²によると、全国のそれぞれの大学が教職課程の充実に向けて様々な取り組み実践をしているが本学も例外ではない。確かな教師像を見据え、今求められている人材を育てることが教職を目指して入学してきた学生や保護者の期待への応えである。ここで2011年度の取り組みを振り返り次へのステップとしたい。

II 教職課程のキャリア形成支援の4年間のスケジュール

教師像の実現を目指した4年間のキャリア支援スケジュールは、図1のとおりであるが、1年次には教職課程履修前教育として「教師力演習」を実施し、教職についての興味・関心を高め、教職課程の学修への意識付けとレポートの提出などの習慣づけを行っている。その結果、1年終了時には全員が期日内に決められた字数で的確な内容のレポートが提出できるようになった。また、意欲的で活動的な学生生活を送っており、GPAも高い値を示している。2年次からは、教職関係の科目の履修と並行して「児童教育演習」や「児童教育実践演習」による体験を加え、理論と体験を循環しながら教職に向けた人間性の充実を目指している。学習—体験—振り返り（反省）—学習のサイクルを繰り返しながら教師に必要な人格の形成を図るよう4年間のキャリア形成スケジュールを作成している。

Ⅲ 「児童教育演習」について

「児童教育演習」は教育課程に位置づけられた科目ではない、体験活動を支援するために設けた教科外指導の一つである。学校現場での体験を通して理論と実践を結びつけ、実践的指導力を身に付けることや集団討論、ディベート、スピーチ、模擬授業などの様々な経験をすることで、教職への自信を高めることを目的としている。

その主な内容は①小学校体験。②各種職員研修へ参加。③教員採用試験に向けた学習。などである。

②については、県立教育センターや熊本市教育委員会と協力してそれぞれが主催する研修会や各学校の自主研修会等に参加させている。③については、それぞれの空き時間を調整して数名が教室に集まり、試験対策の参考書や過去問を解きあって互いの力量アップに努めている。時に、模擬試験なども行う。

目指す教師像				
実践的な指導技術（力）を備えた 児童教育のスペシャリスト				
① 確かな教師観（教師としての使命感・教育的愛情）				
② 教科指導力（全教科の指導力プラス得意科目）				
③ 学級経営力（コミュニケーション能力と信頼関係の構築）				
【4年間のスケジュール】				
	1年	2年	3年	4年
科目等	「教師力演習」 「フレッシュマンゼミ」	教職関係科目		
		「児童教育演習」	「児童教育実践演習」 「特別研究」	「教職実践演習」 「教育実習」 「卒業研究」
体験	学習支援ボランティア（学びの教室など）			
	特別支援ボランティア			
	小学校体験（観察実習）		小学校体験	
	小学校外国語活動ボランティア			
	研修会参加（熊本県教育センター・熊本市教育委員会・各小学校自主研修等）			
	教育実習			

図1 【目指す教師像と4年間のスケジュール】

1 「児童教育演習」としての小学校体験

2011年度は2年生に「児童教育演習」による観察を主にした体験を実施した。2012年度の3年次には更に一歩進めて体験に重きを置いた「児童教育実践演習」を予定している。「児童教育実践演習」は将来においてインターンシップとして単位化することも視野に入れたものである。

「児童教育演習」における小学校体験は、学校現場を直接見聞することが大きな目的であることから、受け入れ小学校には必要以上の負担をかけないように配慮した。体験日誌や出勤簿などを作らず、当該小学校からの学生への特別な指導も特に依頼しなかったが、受け入れ小学校においては様々な対応をいただいた。基本的には出身小学校に体験を依頼したが、出身校を中心とした体験には様々なメリットがある。

- ① 学生にとっては母校であることと、人的にも地理的に明るいため、スムーズに溶け込むことができ小学校になじみやすい。
- ② 先輩として接することで、子どもたちとコミュニケーションがとりやすい。
- ③ 小学校の先生方が卒業生の成長を助けるという気持で愛情豊かに接してもらえる。
- ④ 地元であるという自覚のもとで真摯に取り組む。

以下指導の経緯について述べる。

(1) 希望調査と指導

出身小学校を中心に希望調査を行う。全員が対象であるが、特別支援ボランティアや支援や学習サポーターなどですでに小学校活動に参加している学生もいるため希望者だけの参加とした。今年度は小学校免許希望者19名中9名が希望した。

教職支援室は学生が希望した小学校長へ事前に了解を取った。また、同一市町村内に複数の希望校がある場合は、当該教育委員会を通してあらましの了解を得たうえで各校長に相談した。

1) 事前指導

学生には「児童教育演習」の主旨を説明し十分に理解させる。地方公務員法の服務に関する指導を徹底し、教育現場に入り込むことへの心構えなどの指導をした。事前に了解を得て、各学生が希望の小学校に安心して体験依頼の電話ができるように配慮した。

2) 直前指導

事前打ち合わせの指導、特に体験校に赴く際は先輩として、後輩の“憧れの的”になるような実習態度を心がけるよう注意した。実習に先立ち担当教員が各学校を訪問し、「児童教育演習」の趣旨説明と協力に対する感謝を申し上げた。

3) 事後指導

実習終了後の礼状発送と体験レポートおよび、1年次生の「教師力演習」での体験発表について指導する。

(2) 2012年度の実績

2011年度は小免希望者の19名中9名が小学校体験を実施した。主に出身小学校を中心に2～7日間の体験をした。

1) 体験日数と人数

日数	2日	3日	5日	6日	7日
人数	1人	2人	4人	1人	1人

2) 体験校（参加人数）

市町村	学校名	市町村	学校名
熊本市	大江小学校（1）	南関町	南関第二小学校（1）
玉名市	高道小学校（2）	山鹿市	八幡小学校（1）
	睦合小学校（1）	嘉島町	嘉島西小学校（1）
	月瀬小学校（1）	南阿蘇村	久木野小学校（1）

3) 体験の内容

体験の内容は、「児童教育演習」の趣旨から、観察・見学が中心であるが、各学校の判断にゆだねたためその内容は様々であった。

「教師は児童と向き合っているだけでなく、多様な仕事を子どもからは見えないところでこなしている。」「教師の仕事の大変さを実感することができた。」「学校における先生方の様子をうかがうことができた。」などと、学生は初めて教師サイドから教師の日常活動に携わりいろんな発見をすることができた。

授業見学は殆どの学生が校時毎に学年、学級を変えて、全体的に万遍なく見ていた。また、更に、決められた学級に張り付いて担任教師の具体的な指導を受けている者もいる。さらには、テーマを設けて学校長や教頭、教務主任の先生方から講話をしてもらったところもあった。

【学校体験の主な内容】

- ・学校長や教頭、主任の講話
- ・部活動指導・プール指導補助・学校行事の補助
- ・学習サポート（授業の補助指導）
- ・プリント問題の採点・放課後補習授業の支援、宿題の添削指導
- ・掃除・給食指導
- ・校内研修会・研究授業やその反省会等参加

4) 体験報告書

体験後に簡単な体験報告書の提出を求めた。報告書はA4用紙両面へ表面に、日ごとの体験の内容を、裏面に体験を通して学んだことや感想を書かせた。いずれのレポートも紙面をはみ出すほど豊かに書いてあり、学生の感動のほどが表れている。

が豊富でした。また、クラス授業中の子どもの発言にも驚きました。授業中発表するとき発表者が「発表します」と言い、聞き手も「はい」言って応じます。発表者が「～だと思います。どうですか」と言うと「良いと思います」「同じです」「他にもあります」など、きちんと返事をしていきます。子どもは聞き上手になるだろうなあと感じました。(2年女)

5) 体験報告会

体験を中心に実践力を高める過程の中で、下級生への体験発表を通して自らを振り返らせるために、1年生の「教師力演習」で体験発表会を実施した。7名の学生が体験の内容やそこで学んだことを発表し、1年生からの質問にも答えることとした。先に学習した者が体験し、そこで得たことを後輩に伝えるという体験の共有が、1年生の興味・関心を高めることとなった。

【1年生の感想から一部抜粋】

- ・先輩方のお話の中で、共通していたものは「机上だけでは得られないことが体験にはたくさんある」ということです。先輩方は本当に生き生きして、聞いているこちらにも元気を与えられました。
- ・実際に教育の現場に立ち、子ども達と接してきた先輩方の話を聞いて、私も早く実習に行つて、実際に子どもたちと先生という立場で触れ合いたいなあと感じました。
- ・どの先輩もこの体験を通して何かを学び、そして、自分には教師としてのどの部分において力不足なのかを気づいていてすごいなあと思いました。
- ・音楽の得意な先輩が、5年生の授業で5分間だが発声の指導をしたと話されました。すごいと思い、1つでいいから得意な教科を作ろうと思いました。
- ・ほとんどの先輩が話を聞くだけではなく実際に体験したがよいと言いました。私も早く小学校へ体験学習に行きたくなりました。想像だけでは気づかないことがたくさん出てくるだろうと思いました。また、特に印象に残ったのは、担任の先生の雰囲気クラスの雰囲気になるということです。また、担任の先生の個性が子ども達に大きく影響するという話も印象的でした。改めて教員という仕事は子どもたちの未来を背負っている重大な仕事だなあと思いました。

2 各種研修会への参加

今年度は県立教育センター、熊本市教育委員会主催研修会、教科研究会主催研修会、学校主催自主研修会等に参加した。長期休暇中に開催される研修会には、比較的参加しやすいが、授業日にある場合は、学生自身の授業に差しさわりのない範囲でしか対応できない。このため、県教育センターには、研修場所を本学に変更してもらうなど学生が参加しやすいように配慮していただいた。このことは、参加する先生方にとっては、交通の利便性が良くなりかえって好都合となった。また、研修に学生が参加することにより、研修会が活気に満ちたものとなって好評であった。いろんな研究授業を見学することにより、新しい形の授業展開を知ったことも学生に具体的な示唆を与えることになった。指導案についても指導案と実際の授業の展開を目の当たりにすることができ次年度以降の講義への事前準備につながった。

(1) 熊本県立教育センター主催研修会

1) 教科等研修「小学校外国語活動実践研修（基礎）」

- a) 期日：平成23年6月3日(金)
- b) 場所：本学エカード会館
- c) 学生の参加数：26名（2年生、3年生）
- d) 研修の概要

① 外国語活動の授業展開

- ・単元の組み立ての例

聞く活動（カルタ取り、ビンゴゲーム、おはじきゲーム、指さしゲームなど）

繰り返し言い、音になれる活動（キーワードゲーム、ステレオゲーム、歌、チャンツなど）

記憶したり、自分のものにしたりする活動（集中力ゲーム、ミッシングゲームなど）

自分の意志で言葉を選んで発話する活動（目的が必要、クイズ形式にするなど聞かせる工夫）

② ゲームや活動の実践

③ 指導計画及び学習指導案

- e) 感想（学生のレポートから）

小学校5・6年生に外国語活動が導入され、どのように授業を行うのか、留意点は何かとも気になっていました。最初は、授業の大まかな展開を学びました。中学や高校とは違い、文法や書くことを重要視しないので、子ども一人一人が主体的に授業に関わり、外国についての興味や関心といった意欲の向上が大切であると思いました。また、教師はカルタ取りやビンゴゲームといった活動を通して慣れない言語や表現の苦手意識を軽減し、子どもが“英語を使うことは楽しい”と感じるような授業を実践しなければなりません。今回、実際にゲームを行い子どもの立場になって考えた後、今度は教師側として授業の流れや意図を考えました。私が小学生の時のゲームや先生とのやりとりにも達成する目標があったこと、計画された流れに沿って行われていたことを知りました。

指導計画では、大まかな目標とそのためにはどのような活動を行うかを考え、〈関心・意欲・態度〉〈外国語への慣れ親しみ〉をはじめとする評価基準の中で、子どもの授業へのかかわり方を見ることを学びました。学習指導要領に示されている目的・目標を達成するために行う授業は、教師一人一人の特性が現れると思います。学習指導案を作成する作業を初めてしましたが、予想以上に難しく友達と協力しながら考えました。中学校からは文法を意識しなければならないが、小学校では子どもの発見に重点を置くので、一人一人の気づきや意見を尊重し、臨機応変な態度を取ろうと思いました。また、学習指導要領のねらいや内容といった知識が足りないので、教育実習に行くまでに学び、身に付けておきたいと思います。今回の研修に参加してよかったです。もっと現場の先生の声を知りたいです。（2年女）

2) 教科等研修「小学校生活科実践研修」

- a) 期日：平成23年8月16日(火)
- b) 場所：本学エカード会館

- c) 学生の参加数：15名（2年生、4年生）
- d) 研修の概要
 - ① 学習指導要領の趣旨を踏まえた指導と評価の在り方
 - ② 思考力や表現力を高める授業の在り方
- e) 感想（学生のレポートから）

生活科では学習活動が体験だけで終わるのではなく、学習指導を工夫して子どもの思考力・表現力を高めなければなりません。そのため教師は具体的な子どもの姿のイメージを豊かにもち、言葉かけや朱入れを通して個に応じた指導が必要だと思います。実際に友達の感想に朱入れをする作業をしました。なかなか難しく、もっと経験することが大切と感じました。また、子どもが作った作品では、設計図や子どもとの対話を通して“なぜ、このように作ったのか”、“どうしてこの材料を使ったのか”、“過程はどうだったか”といった視点をもとに評価したいと思いました。ルーテル探しでは、先生方と学生では気づきに異なる点が多かったので、児童の視点だと面白くなりそうだなあと感じました。生活科の活動では、一つの活動で終わるのではなく、スパイラル状に子どもの気づきに質が深まっていくといいです。教師の言葉かけひとつで子どもの思考力・表現力を高めることができます。学校でさまざまな体験をして、言葉の掛け方を学びたいと思いました。（2年女）

3) 特別支援研修

- a) 期日：平成23年9月8日(木)
- b) 場所：本学4301教室
- c) 学生の参加数：37名（2年生、3年生、4年生）
- d) 研修の概要

発達障害のある児童支援について

- ・特性から配慮を必要としての支援
- ・特性から当該児の強みを生かした支援
- ・こころをくみ取った（こころに寄り添った）支援
- ・校内・外連携及び共通理解
- ・級友を生かした支援
- ・保護者への支援

- e) 感想（学生のレポートから）

子どもとかかわる中で、発達障害のある児童はクラスに必ずと言っていいほどいる。教師はそういった児童を勝手に解釈してしまいがちです。重要なのは、その子のウイークポイントを埋めることだけでなく、強みを生かすこととしました。理解しがたい行動もあるかもしれませんが、しかし、その対応で終わるのではなく、背景・事後の子どもの気持ちを考えることで、こころに寄り添った支援ができると思います。また、当該児は自己嫌悪におちいりやすいと分かり、こちらが声掛けの言葉を子どもが理解しやすいように配慮し、工夫して表現することで褒められる体験が増えるようにしたいです。私たちはつい子どもに「〇〇するな」「××しないで」と上からの目線で、否定的な言葉を言ってしまいます。ちょっとした配慮で受ける印象が

全然違うので、日頃からそういった言葉になれ使っていきたいと思いました。(2年女)

(2) その他の研修会

教育委員会や学校が行う自主研修についても、いくつかのご案内を受けたが、残念ながら、授業の関係や、休暇中の集中講義などの日程と重複して参加できない学生が多かった。

1) 熊本市教育委員会研修会

2012年2月9日 熊本市内各小学校、参加10名、熊本市教育委員会が主催する研修会、研究授業を見学するとともに授業研究会にも参加することができた。

2) 菊池郡算数教育研究大会

2011年8月1日 合志市文化会館、参加5名、算数教育研究大会に出席し、研究授業を見学するとともに、パネルディスカッションにも参加させてもらった。

3) 熊本市立城東小学校自主研修会

2012年2月3日、熊本市立城東小学校、参加9名、城東小学校の自主研修会の研究授業を見学した。

(3) その他の体験活動

以上のほかに、特別支援教育理解の一環として実施されている小学校特別支援ボランティアや、本学と菊陽町が連携した小学校外国語活動ボランティアをはじめ、熊本市教育委員会が実施する学びのノート活動、大津町教育委員会が実施する大津町冬休み集中学習会ボランティア、各小学校が独自に実施する夏休み学習会等、定期的あるいは単発的な小学校現場体験の機会があり学生は積極的に参加している。

IV 成果と今後の課題

「児童教育演習」の成果は、参加者が教職に対する意識を改めて確認ができたことである。教職の魅力を再発見し、本当に教師になりたいという想いを強めたことである。このことは、他の職員研修会などへの積極的な参加となって表れている。また、後輩の意識向上や学習意欲の喚起にもつながった。1年生の「教師力演習」のアンケートで、10名が役立った内容として先輩の体験発表を上げている。

「担任の雰囲気クラスの雰囲気になっていた。」「授業は『教えること』ではなく、『手伝うこと』と知った。」などという体験の感想を聞いたことが強い印象として残り、「先輩方の話の中で子どもたちの発想力のすごさを聞いて、体験学習が楽しみになった。」と小学校体験への期待を膨らませている。

教師力演習アンケートから

・ 講話以外の内容で役立ったと思うもの（複数回答）45名回答の上位

1 集団討論（26人）

- 2 先輩の体験発表（10人）
 - 3 教員採用模試（9人）
- （以下略）

3年次のキャリア支援として「児童教育実践演習」を予定しているが、これは、「児童教育演習」を更に一步進めたもので、観察から活動へと発展させ、将来はインターンシップとして科目化し、単位化することを見据えている。

リベラル教育を基本理念とする本学としては、専門分野の学問を探究しつつ幅広い教養と豊かな人間性を育み、理論と体験を積み重ねながら教師としての人格の完成を目指すことが、中教審教員の資質能力向上特別部会ワーキンググループ報告³にある“学び続ける教師”に繋がり、結果として教育委員会が求める教師像⁴に成長すると思われる。

本学では小学校免許プラス1として得意分野を持つことを一つの目標にしているが、小学校体験を通して何か特技を持つことの意義を体感したことは今後の大学生活のモチベーションを高めることに繋がった。

1年間の取り組みを通していくつかの課題も見えてきた。まず初めに、学生の希望を満足させるだけの実習先の継続的な確保の難しさである。今後増えるであろう小学校免許取得希望者のすべてに十分な対応が続けられるかどうか。2011年度は「児童教育演習」の該当者は小学校免許希望の19名であったが、次年度は42名が小学校免許を希望している。更に、2012年度入学者では55名の者が小学校免許を希望している。2年次生の「児童教育演習」と3年次生の「児童教育実践演習」を同時に実施することになると、2学年分の実習先を確保しなければならないし、その上4年次における教育実習校の確保も必要になってくる。

次に、理論と体験をどのように融合するか。現在は、各小学校における観察を主とした体験、教育委員会や各学校が主催の学習ボランティアへの参加、教育委員会や教育センター・各学校の自主研修などの研修会参加など単発的な体験の連続になっている。大学における理論とこれらの体験を一体化して更なる効果を融合するところまでは到達していない。

今後は大学の講義を中心とした理論と学校現場での体験、教育委員会の専門的な立場からの指導助言とともに、教育センター等が実施する各種研修会への参加など立体的に組み合わせ、キャリア支援体制を確立させ、人文学部の専門性を生かして豊かな人間性と確かな人権感覚を身に付け、実践的な指導技術を備えた教師の育成を目指したい。講義や体験等を結びつけ融合させる触媒となるよう「教師力演習」や「児童教育演習」、「児童教育実践演習」、さらに「教職実践演習」の展開とも関連させるなどより充実させたい。

V おわりに

「児童教育演習」は、講義と体験とを絡ませ様々な課題の解決を繰り返すことによって実践力を磨くという小学校教師に向けてのキャリア支援の一つとして設けたものである。取り組みの初年度としては、一応の成果を感じる。平成24年4月18日に出された中教審特別部会基本制度ワーキンググループの資料の教育実習の課題⁵によると、①実習期間が短い、②実習生受け入れ校の

負担が大きい、③教員を志望していないにもかかわらず実習しようとする学生が多いなどの課題が挙げられている。

「教師力演習」による課程履修前教育で十分な導入教育を行い、「児童教育演習」などによって早期から体験させることにより、実習期間が短いという課題はいくらか解消できる。また、現場で模範となる教師の活動をじかに観察し、作業を手伝うことによって企画力や計画、実行へ向けての実務的な力を養うことができる。体験を重ねることにより、魅力とともに教職に求められる厳しさも知ることになる。教職に対する使命感や責任感などの資質が養われ、教師志向が高まり、真に教職を目指す者が教育実習へとつながり、単に免許だけ取りたいという学生の減少も期待される。このことは実習受け入れ校の負担軽減にもなると思われる。

今年度、県立教育センターや、熊本市教育委員会などに様々な援助を受けた。今後はさらにこの関係を発展させ、小学校、教育委員会等と大学とがスクラムを組んで教師養成に取り組みたい。

注

1. 九州ルーテル学院大学紀要「VISIO」41号pp9～20
教職科目履修前指導の試みー「教師力演習」を事例としてー
2. 日本教育新聞連載「教職課程の現場」2011年3月7日～
3. 教職生活全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（基本制度ワーキンググループ報告）中央教育審議会教員の資質能力向上特別部会基本制度ワーキンググループ平成24年4月18日
4. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo11/001/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2011/09/26/1309293_04.pdf#search
＝ ‘都道府県・指定都市教育委員会が求める教師像’から

都道府県・指定都市教育委員会が求める教員像

- 教科等に関する優れた専門性と指導力、広く豊かな教養など
(66自治体中61自治体)
- 教育者としての使命感・責任感・情熱、子どもに対する深い愛情など
(66自治体中50自治体)
- 豊かな人間性や社会人として良識、保護者・地域から信頼など
(66自治体中44自治体)

5. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo11/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2010/09/29/129770_0_01.pdf#search
＝ ‘教員の資質向上方策の見直しおよび教員免許更新制の効果検証にかかる調査集計結果（速報）’から 4 教育実習より